

公共施設・インフラ施設について (第2回検討会補足)

公共施設（建物）の老朽化の進行状況等

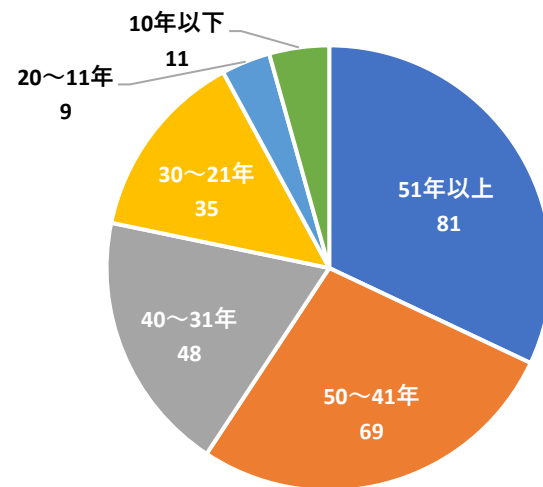
将来的に財政規模の縮小が見込まれることや県民ニーズの変化に対応するため、老朽化が進む公共施設のあり方の見直しが必要な状況

公共施設の老朽化の状況（延べ面積1,000㎡超）

単位：建物数

類型	経過年数				合計	経過年数が51年以上の主な施設
	51年 以上	41～ 50年	31～ 40年	30年 以下		
行政施設	16	7	3	13	39	県庁舎本館、富山総合庁舎、高岡総合庁舎
福祉施設	0	4	6	7	17	
スポーツ施設	2	4	4	2	12	県営富山野球場、県営富山武道館
産業系施設	5	6	13	10	34	農林水産総合技術センター（農研本館・作業場）、 富山県創業支援センター、環境科学センター（管 理棟・研究棟）
文化施設	3	2	4	7	16	県民会館、県立図書館、教育文化会館
宿泊施設	2	4	2	2	10	有峰青少年の家、呉羽少年自然の家
公営住宅	50	38	11	8	107	
公舎	2	4	5	3	14	
その他	1	0	0	3	4	
合計	81	69	48	55	253	

公共施設の経過年数の割合



31年以上の公共施設は
全体の3/4超

51年以上の公共施設は
全体の約1/3

出典：公有財産管理システム登録建物(学校施設除く)

県有施設等の状況

県有施設等総合管理方針（R3改訂）

（出所）2025.5.30第1回未来へつなぐ行政サービスのあり方検討会資料を加工

- 県（県立大学含む）が保有する公共施設等全体（建物及びインフラ施設）
 - ・ 建物は、築50年以上が 21.4%、築30年以上は 67.3%と老朽化が進んでいる。
 - ・ インフラ施設についても個々の状況は異なるものの、老朽化が進んでいる施設も存在する。

○ 将来必要となる更新費用等の推計

- ・ 推計方法 下記2方法による 30年間分の費用

R3改訂に合わせ、今後30年間の維持管理費用等を見える化
※昨今の物価高等は見込まれていない

事後保全型維持管理（長寿命化対策を講じず、耐用年数ごとに更新）

→ 約 1兆5433億円（年平均 514億円）

約6,500億円（年約215億円）節減

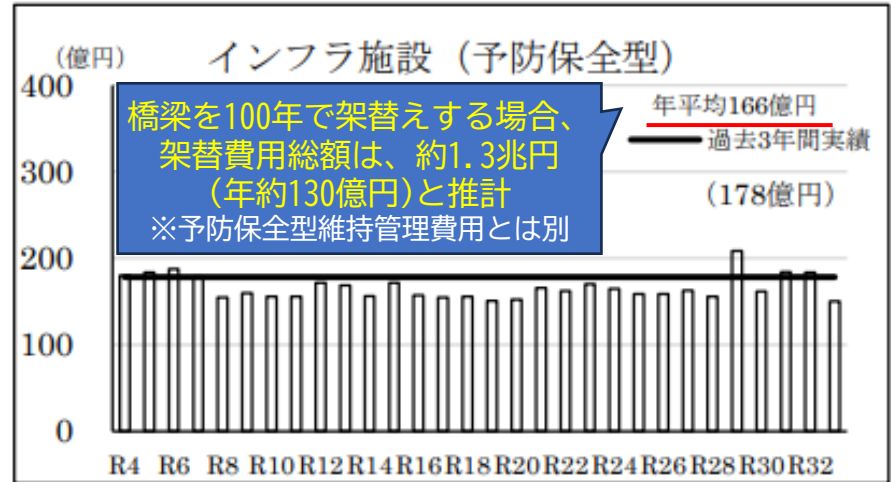
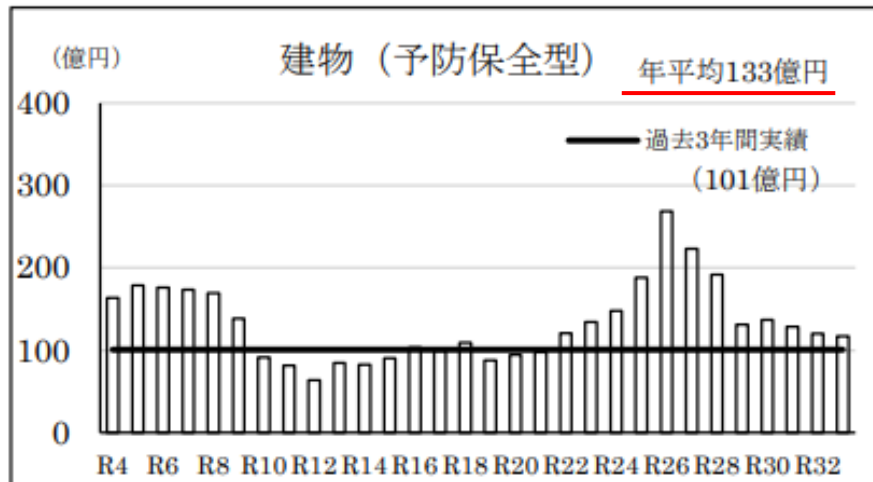
予防保全型維持管理（長寿命化対策を講じ、耐用年数を超えて使用）

→ 約 8,975億円（年平均 299億円）

維持管理方法を工夫しても
今後30年間で約9,000億円
（年約300億円）が必要
（参考比較）

R7県当初予算総額：約6,000億円

しかし、予防保全型維持管理の場合でも現在要している経費（年間約 279億円）を上回る。



- ・ 県人口、職員数は減少が見込まれるが、建物・インフラ施設は残存することから、効果的・効率的な維持管理や保有総量の適正化が一層必要となってくる。

県有施設等の状況

長寿命化計画の体系図

インフラ長寿命化基本計画【国】 H25.11

「地方公共団体は『**行動計画**』と『**個別施設計画**』を策定する」

H26.4総務省「公共施設等総合管理計画」策定要請
※都道府県、市町村へ要請

「富山県公共施設等総合管理方針」策定 H28.2

公共施設等を取りまく様々な現状や課題を踏まえ、総合的に管理する基本的方針

(H30.7 及び **R4.3改訂**) 現行計画：R4（2022）～R13（2031）

(参考)その他類型

- ・スポーツ施設
- ・インフラ系
- ・公営企業会計施設
- ・警察施設

県営住宅

文化施設

庁舎等

学校施設

A庁舎

本庁舎

⇒ 一部は個別に議論

← **個別施設計画
(類型別計画)**

- ・各施設所管所属が作成
- ・庁舎等については、財産管理室が所管し「富山県庁舎等個別施設計画」を策定 R3（2021）～R12（2030）

← **中長期保全計画
(施設別計画)**

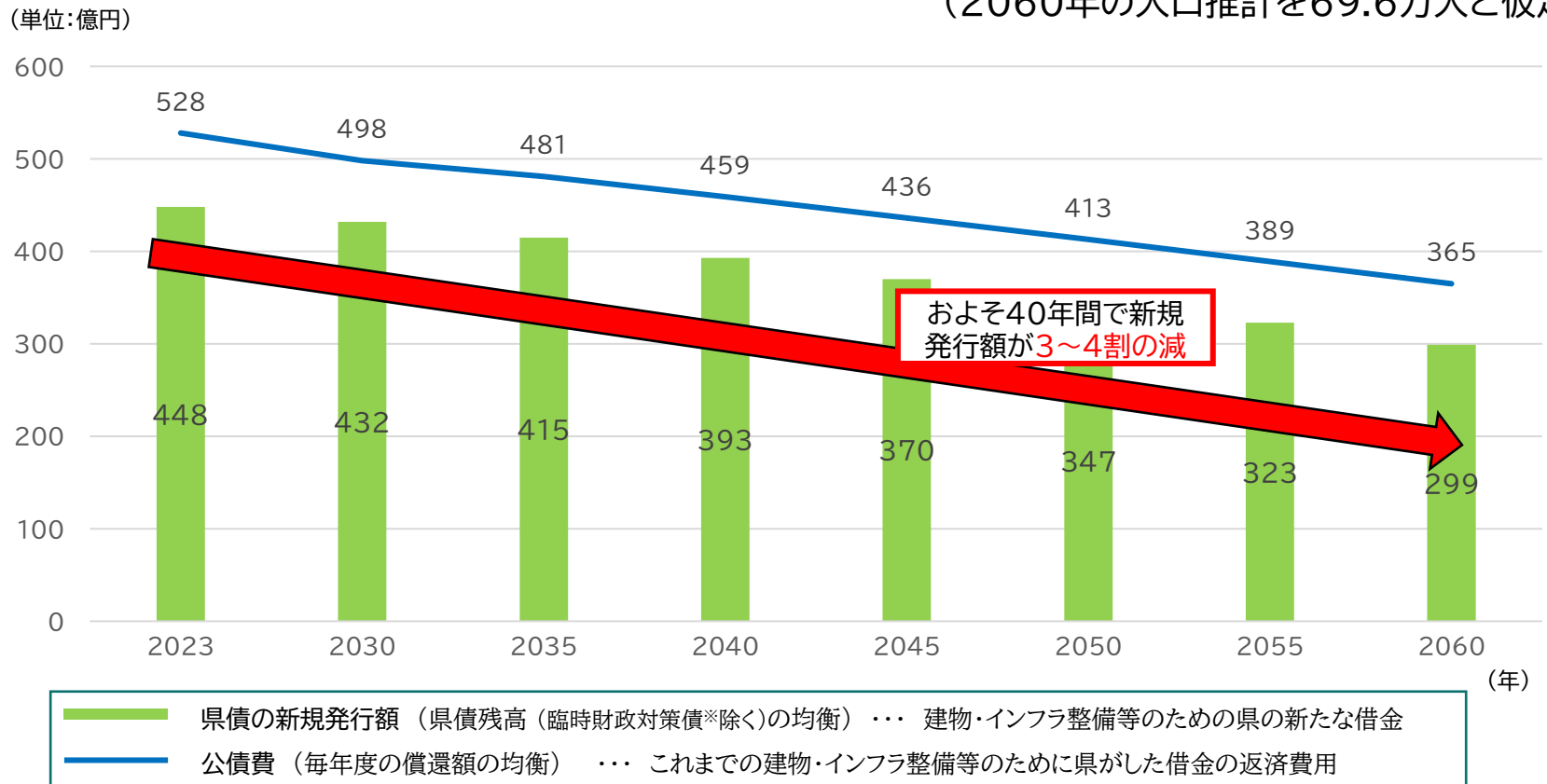
既存の施設等を維持し続ける前提ではなく、必要な機能・サービスのあり方を踏まえ、分野横断的観点や行政組織の枠にとらわれない利用者目線で、オール富山で「省インフラ」を図る観点が必要
(将来の利用者の視点や、一人当たりの財政負担(金額、財源等)にも配慮し県民が当事者意識をもてる工夫が必要)

公共施設等に要する費用

世代間の負担の公平性を考慮する場合、維持管理費を抑制するとともに、施設等の整備に係る費用を減らしていく必要がある。

県民一人あたりの県債負担を2023年時点と同一にした場合の試算

(2060年の人口推計を69.6万人と仮定)



※臨時財政対策債 : 国の地方財政収支の不足分を補填するため特例として発行するもので、元利償還金は後年度の地方交付税で全額措置

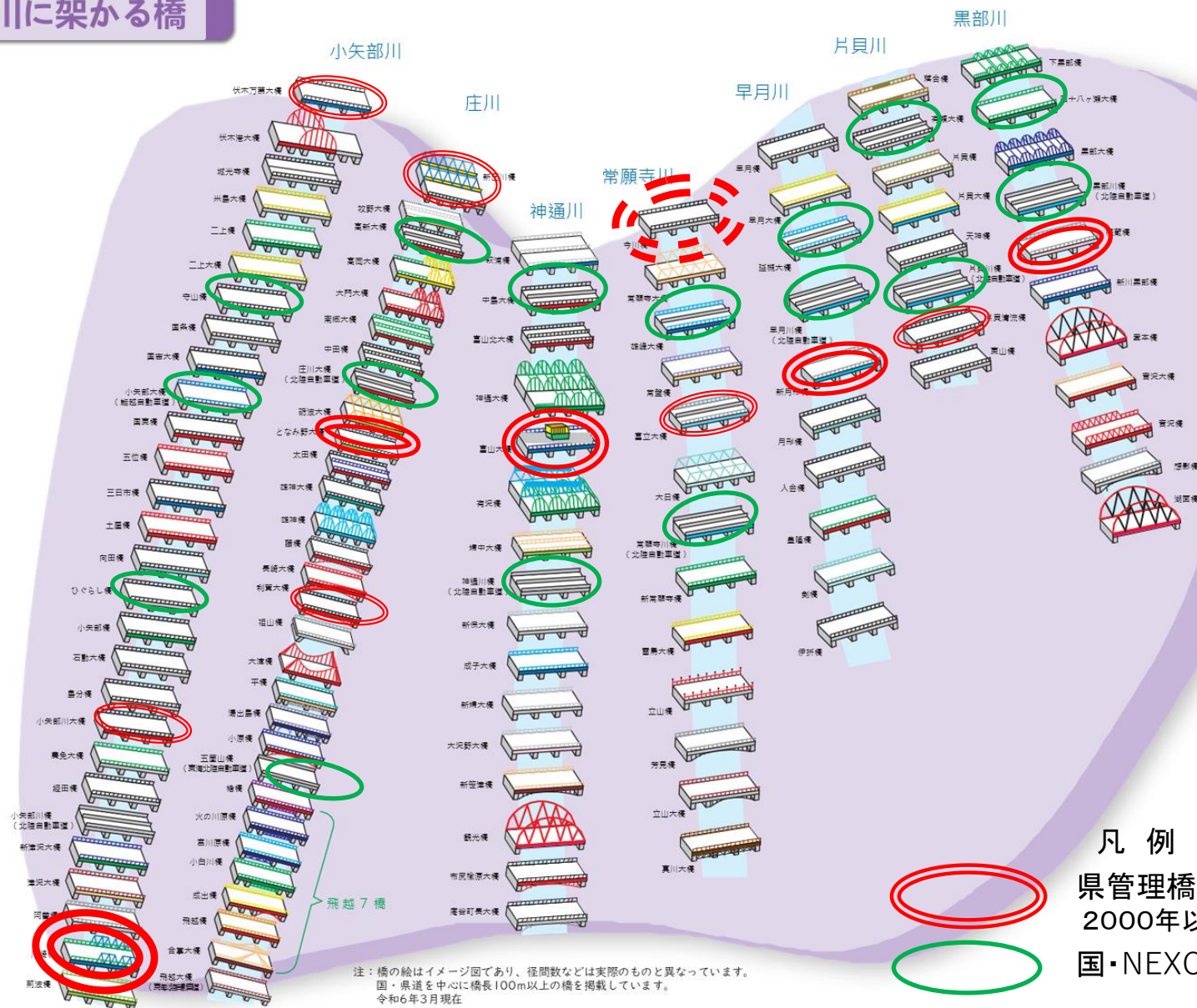
(出所) 2025.7.31第2回未来へつなぐ行政サービスのあり方検討会資料を加工

前回の振り返り

県内の主な橋梁一覧

(七大河川に架かる主な橋)

七大河川に架かる橋



注：橋の絵はイメージ図であり、径間数などは実際のもとは異なっています。
国・県道を中心に橋長100m以上の橋を掲載しています。
令和6年3月現在

県管理橋梁更新費用について

想定される県管理橋梁更新費用（あくまで試算用）

架替所要額（試算）

1 橋長100m以上（歩道橋除く）

橋 梁 数：168橋

事 業 費： 100～300m：20億円／1橋
 300m～ ：90億円／1橋

168橋の試算
計 6,790億円

2 橋長15m以上100m未満（歩道橋除く）

橋 梁 数：607橋（計21,150m）

事 業 費： 平均35m：10.5億円／1橋

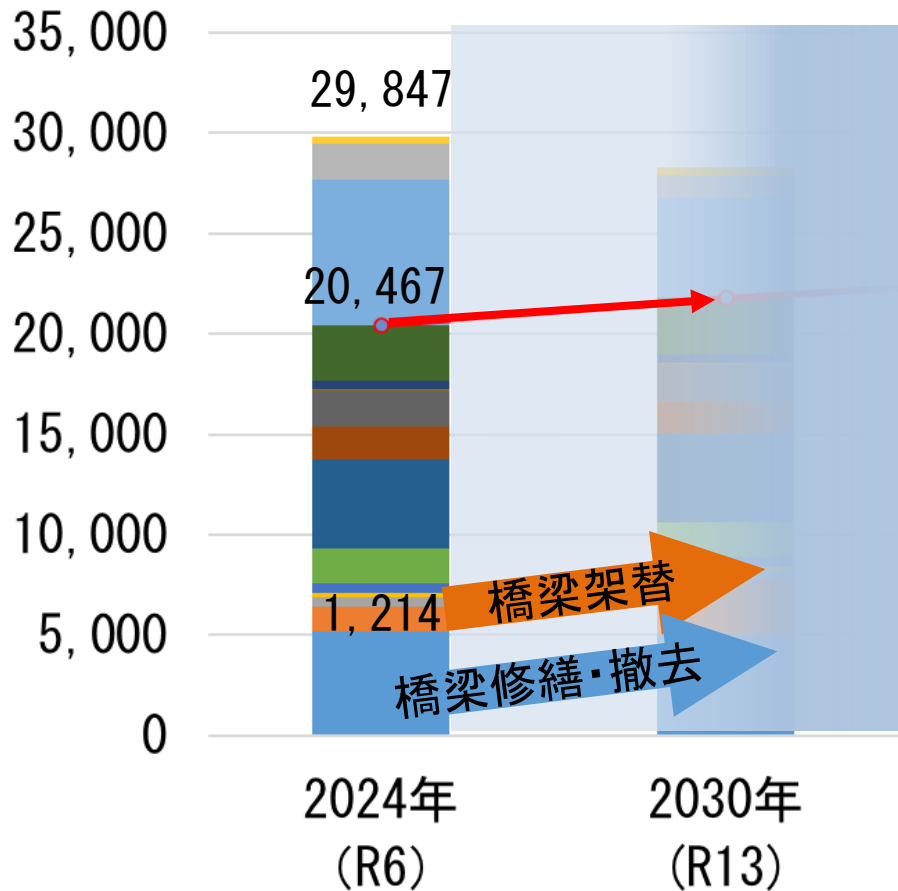
607橋の試算
計 6,345億円

計 約 1.3兆円/100年

県の道路事業予算と橋梁修繕更新

道路事業予算

百万円



道路改良	道路拡幅
	交通安全(歩道設置)
	バイパス・橋梁新設



メンテナンス	橋梁修繕・撤去
	橋梁架替
	トンネル老朽化対策
	道路付属物老朽化対策
	除雪機械購入



維持修繕	除雪
	災害防除
	舗装修繕
	道路付属物
	雪寒(消雪)



維持管理	区画線修繕
	路面清掃、路肩の除草、
	街路樹管理
	道路パトロール
	照明灯
	除雪情報システム

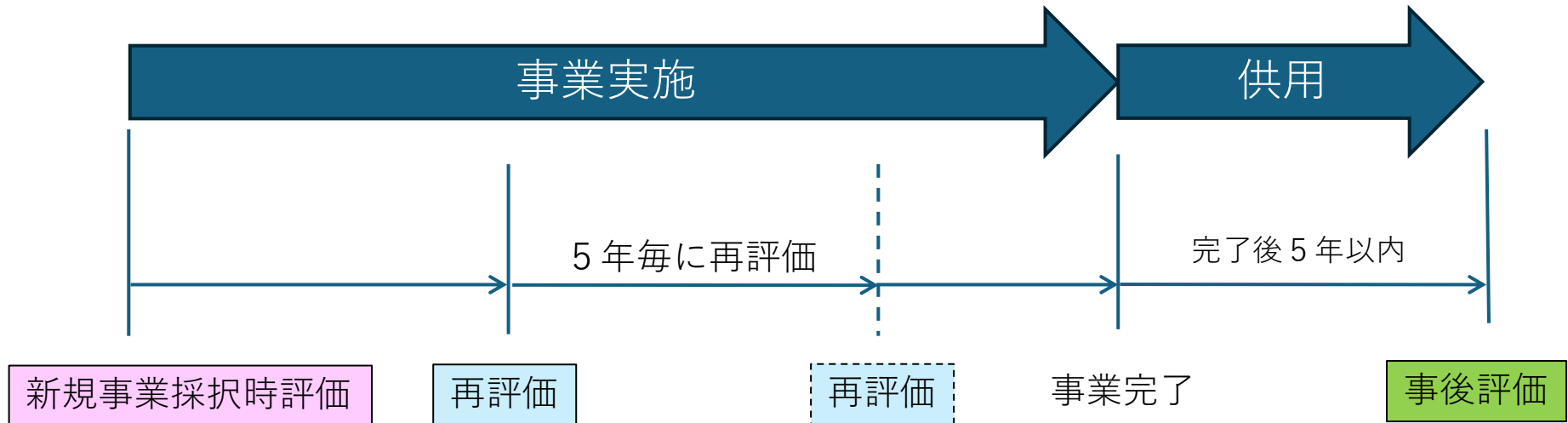


- 橋梁修繕・撤去
- 道路附属物 (ロックシェッド等)
- 道路附属物
- 除雪情報システム
- 道路改良
- 維持・更新系予算計
- 橋梁架替
- 道路附属物 (スノーシェッド)
- 災害防除
- 除雪機械
- 歩道設置
- トンネル
- 舗装修繕 (2層)
- 雪寒 (消雪)
- 除雪
- 橋梁新設

前回の質問等への説明解説

事業評価の仕組み

客観的評価



投資効果の指標（道路事業）
費用便益比：便益(B)／費用(C)

便益 B (供用後50年間)

- ・ 走行時間短縮
- ・ 走行経費短縮
- ・ 交通事故減少

費用 C

- ・ 建設費用(工事費、用地など)
- ・ **維持管理費用(供用後50年間)も考慮**

B／C 1.0以上

**数値が大きくなるほど、事業実施
に対する効果は大**

**橋梁架替など既存施設の更新事業
では算出していない**

※費用便益に表せない効果
交通円滑化に伴う交流拡大など

新規事業の例（道路）

整備前

将来交通量の推計
(イメージ)

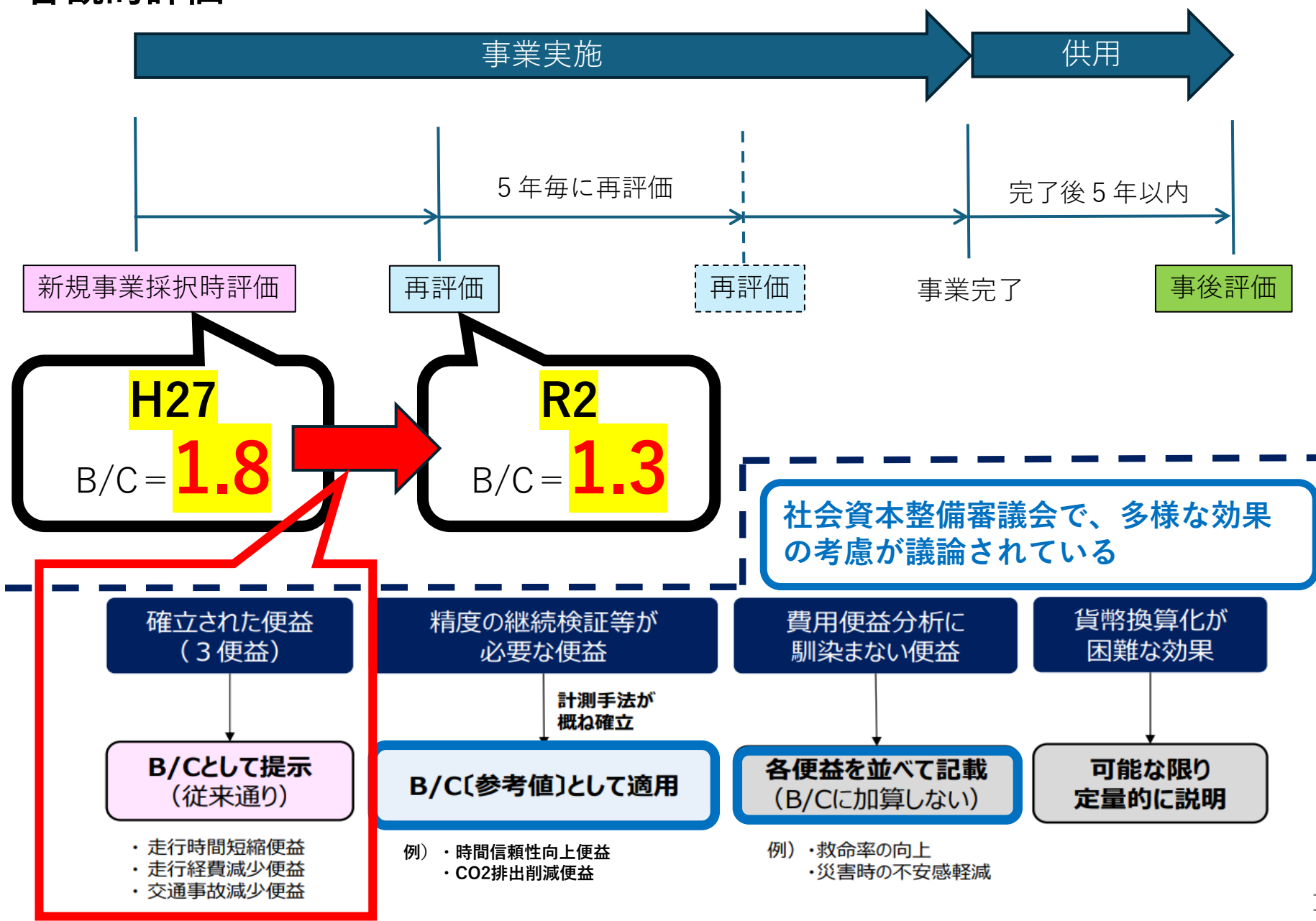
整備後

(一)姫野能町線
L=1.8km

9,400~13,400台/日

県事業におけるB/Cの事例

客観的評価



47都道府県 道路整備率 最新全国ランキング

1位	大阪府	75.5%
2位	富山県	74.0%
3位	石川県	73.9%

10位	福井県	68.1%
-----	-----	-------

全国平均	60.7%
------	-------

45位	徳島県	45.7%
46位	奈良県	45.0%
47位	茨城県	42.4%

※令和4年3月31日時点

※国、県、市町村道路の合計値から

出典：とやま統計ワールド

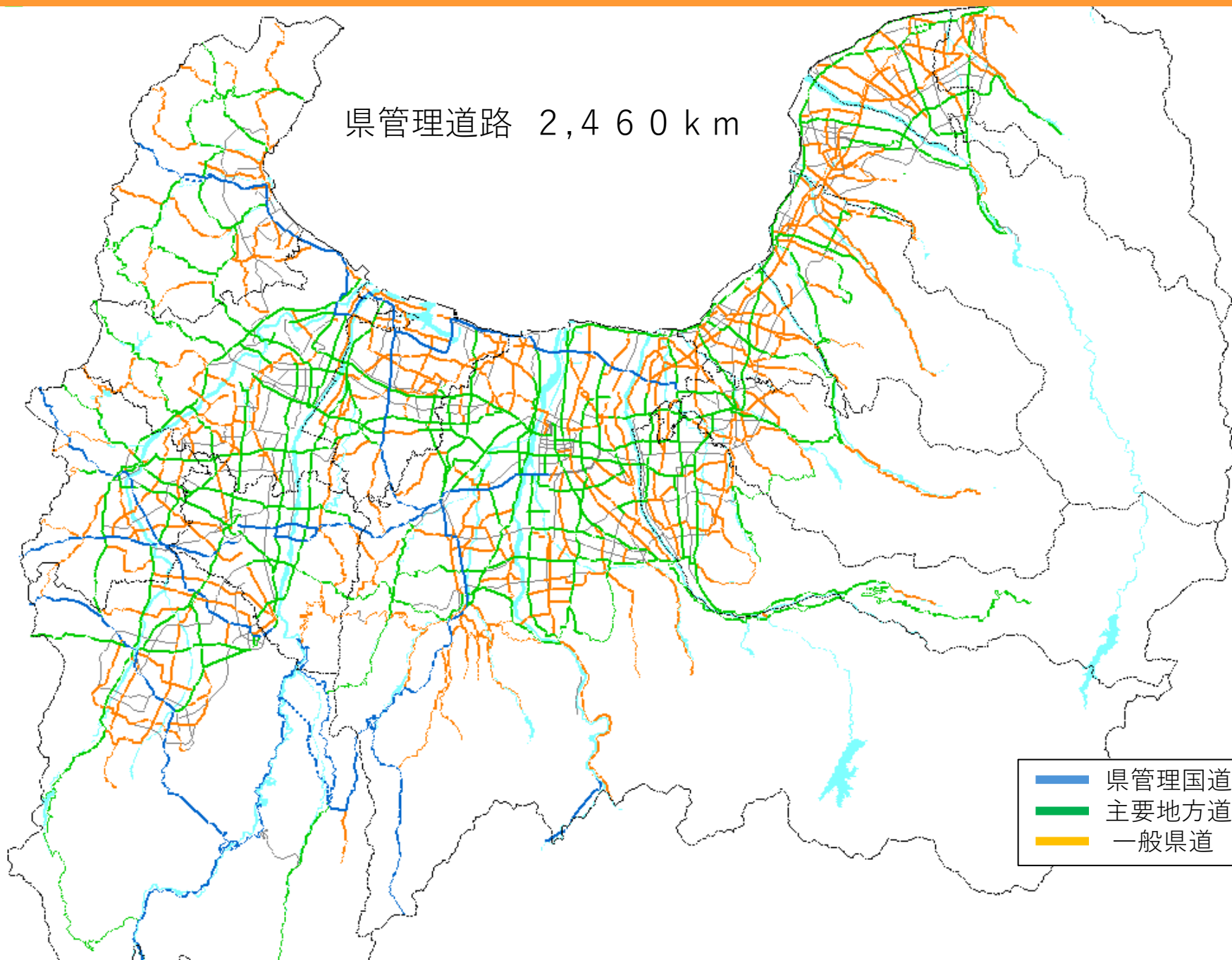


$$\text{道路整備率} = \frac{\text{車道幅員5.5m以上改良済み かつ 混雑度1.0未満の延長}}{\text{道路の実延長}}$$

道路整備率が高い ➡ 安全かつ交通の流れがスムーズな道路が多い

富山県の県管理道路網

県管理道路 2,460 km

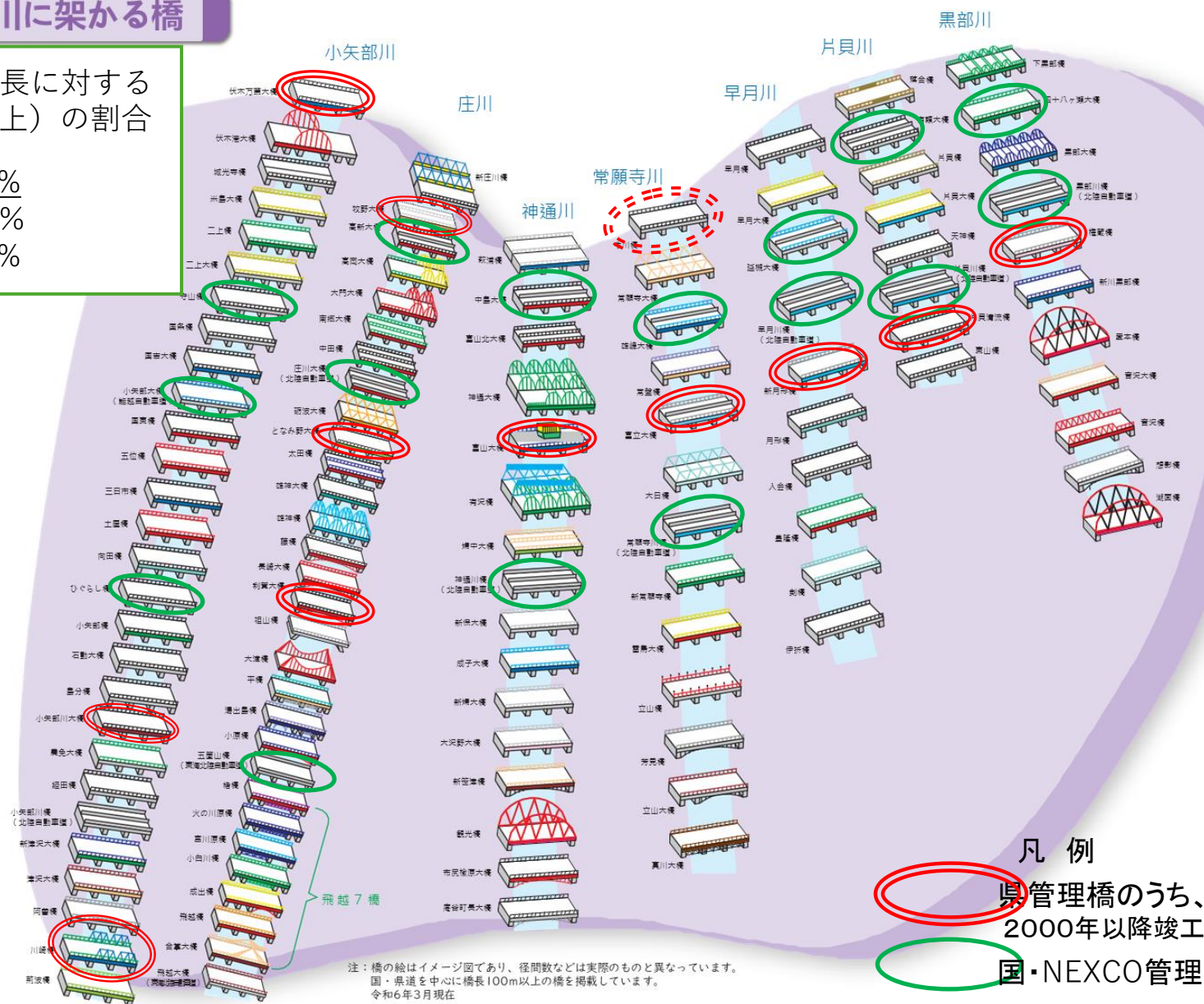


富山県は、河川が多く、結果的に橋梁数も多い

七大河川に架かる橋

県管理道路延長に対する
橋梁（15m以上）の割合

富山県	2.23%
新潟県	1.89%
石川県	1.97%



◆ 日常の維持修繕は最優先で行いながら

- ・ 交通量や緊急輸送道路、救命救助に必要なとなる道路
 - ・ 構造が複雑、施工条件が厳しい等の技術的に難しい構造物
- 全力でメンテナンスを行い長寿命化を図る。

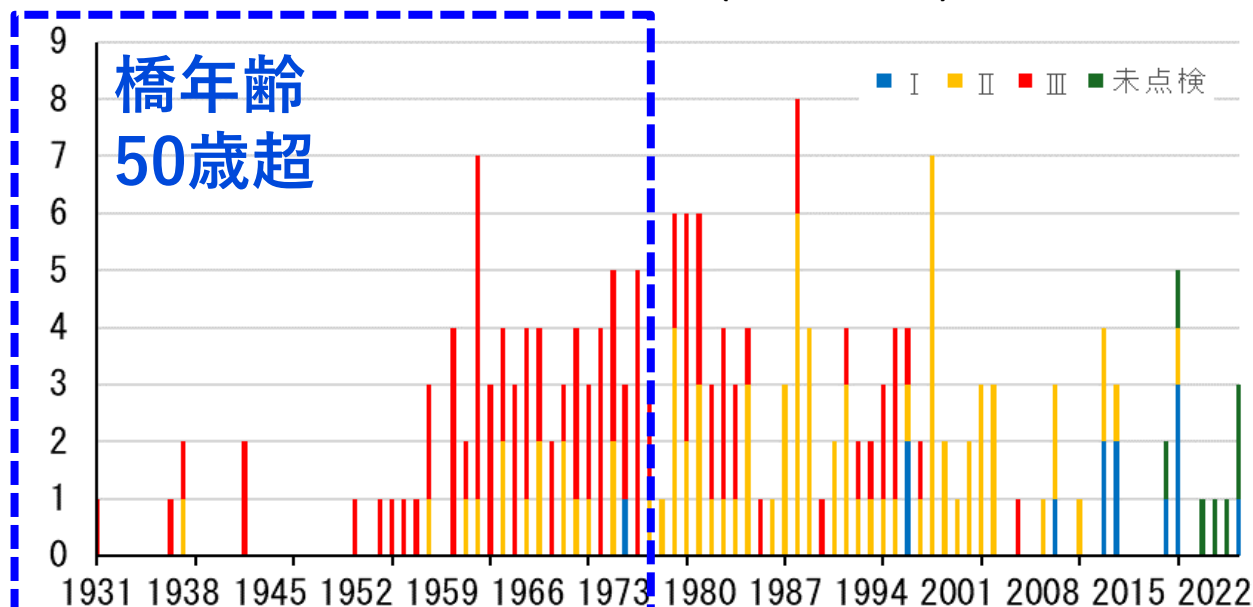
➡ 整備済み道路を今後も活かすため、維持修繕も全国トップクラスを目指せないか？

◆ 今後さらに、メンテナンス費用の高騰が見込まれる

➡ 優先度、重要度を鑑み、管理の考え方の設定が必要か？
(メンテナンスも優先度を考えられないか)

架設年次別 点検結果別 橋梁数 (県管理)

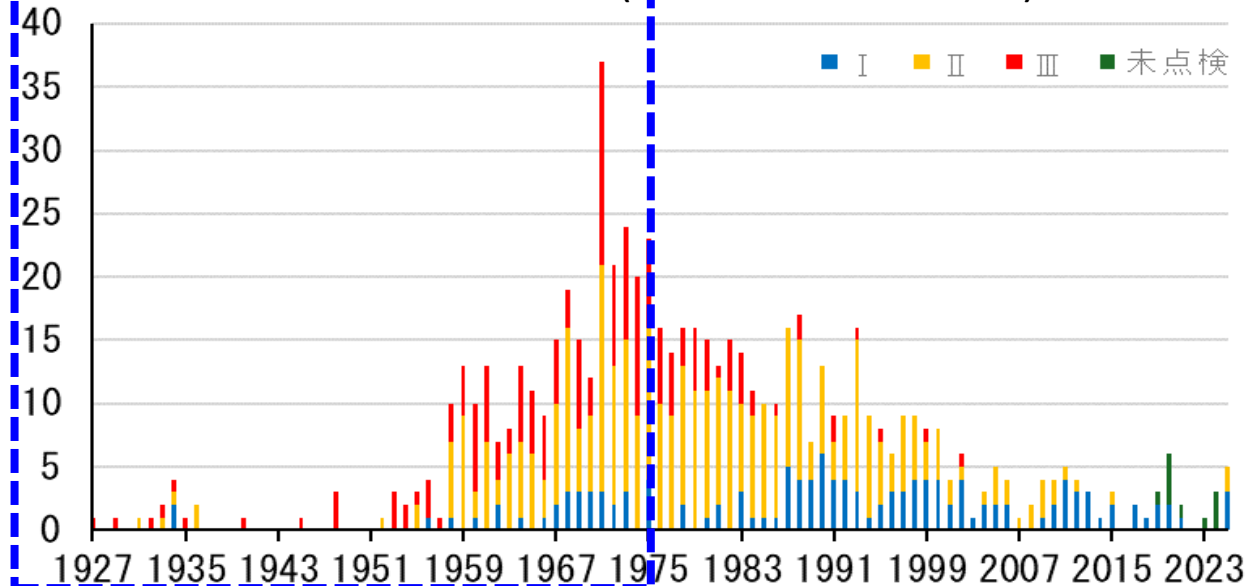
富山県管理 橋梁数(100m以上)



橋長100m以上
橋梁数:**168橋**

架設50年経過橋数
2025年 74橋
→2035年 111橋

富山県管理 橋梁数(15m以上100m未満)



橋長15m以上100m未満
橋梁数:**607橋**

架設50年経過橋数
2025年 312橋
→2035年 452橋

富山大橋 4車線化へ

耐震強化 渋滞を解消

「還暦」で年内にも計画案
老朽進む

「還暦」の名称親しまれ、県の西を結ぶ富山大橋を改修し、四車線化にするため、県は年内に具体的な計画を作り、地元で説明する方針である。昭和十一年にできた富山大橋は、今年、完成六十年を迎え、老朽が進んでいる。地震などの災害で大きな被害が出かないことや、県道高山高岡線の交通渋滞解消を図るのが目的だ。地の合意が得られれば、橋だけではない、周辺なども含めた都市計画決定を行い、十年ごろの着工を目指している。

富山大橋は橋長四百七十七メートル、幅員十八メートルの鋼桁橋で、昭和十一年四月に開通した。曾工から一九九九年八月、事業費は当時の金額で八十八万四千円だった。同じ十一年に完成した建築物には、手すりなど、風評もあつた。この補修が欠かせない。

富山市五箇に旧陸軍の歩兵第六十九隊があったことから「富山大橋は戦車が通ること想定し、重いのでも対応できるように設計されているように、実際に多大な影響を与えた。当時、すでに交通量の増加で橋の疲労度が増していることが原因の一つにあげられている。建設が一年と、午前七時から午後七時までに二万四千六百五十台の車が通過。県内の主要な橋の中では中島大橋に次いで多かった。数年前には水漏れ防止の補修も行われている。

さらに、阪神大震災の教訓から、都市部の橋では、八百ガル（震度）相当に耐えられる耐震性が求められている。

県は渋滞解消対策として、これまでさまざまな検討をしてきたが、「四外に別な方法が見えず、変遷移転市電など課題も多いが、は避けて通れない」と判断。決

【北日本新聞1996年1月3日付】



2011年:新橋の供用開始、2015年:事業完了

1995年に架替え計画が報じられてから、2011年に新橋の供用開始、2015年の旧橋撤去完了(2015年)まで、**20年を要した**

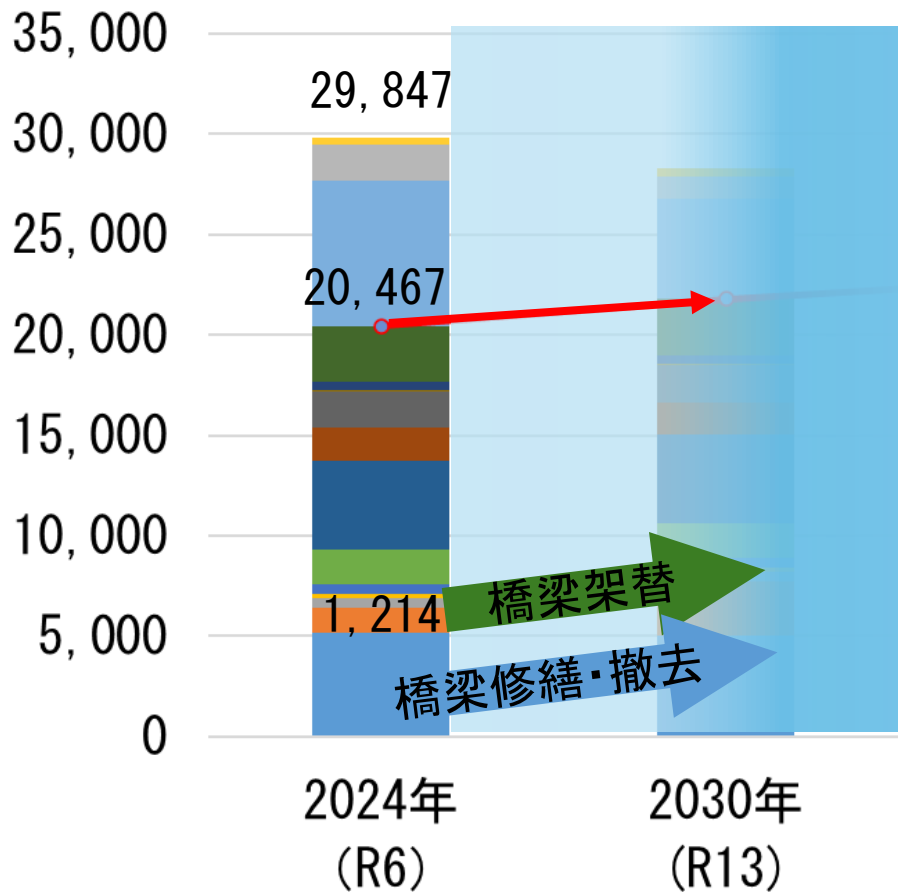
事業費は約240億円

老朽化の状況に鑑みると、早晩、各橋で更新検討が求められる

県の道路事業予算と橋梁修繕更新

道路事業予算

百万円



道路改良	道路拡幅
	交通安全(歩道設置)
	バイパス・橋梁新設

現状維持ライン

メンテナンス	橋梁修繕・撤去
	橋梁架替
	トンネル老朽化対策
	道路付属物老朽化対策
	除雪機械購入

維持修繕	除雪
	災害防除
	舗装修繕
	道路付属物
	雪寒(消雪)

維持管理	区画線修繕
	路面清掃、路肩の除草、
	街路樹管理
	道路パトロール
	照明灯
	除雪情報システム



- 橋梁修繕・撤去
 - 道路附属物 (ロックシェッド等)
 - 道路附属物
 - 除雪情報システム
 - 道路改良
 - 橋梁架替
 - 道路附属物 (スノーシェッド)
 - 災害防除
 - 除雪機械
 - 歩道設置
 - トンネル
 - 舗装修繕 (2層)
 - 雪寒 (消雪)
 - 除雪
 - 橋梁新設
- 維持・更新系予算計

道路ネットワーク維持、安全安心の確保を最優先に

◆道路ネットワークの維持・更新は、

- ・ ライフサイクルコスト（LCC）を優先
- ・ 重要物流道路、緊急輸送道路などを優先

◆橋梁更新はできる限り平準化

⇒ 新設道路/改良は、防災・救急などに・・・

持続可能な道路ネットワーク維持のためには

方向転換には、「県民のインフラに対する理解と意識の醸成」が必要！

- ・ 令和7年8月、官民協働事業レビューにおいて「道路管理業務」を提案
- ・ 道路を安全に利用していただくために、日々行っている道路維持作業現場を視察
- ・ レビューに参加された県民評価者から、以下の意見をいただいた



【県民評価者のことば】

- ・ 初めて知ることばかりで、興味関心を持った。このような情報が届いていないので、知ることができれば、多くの人に関心を持ち、意識が上がってくると思う。
- ・ 自分とは関りがなかったことだと思っていたが、知ることができ、身近に感じるようになった。
- ・ 現場の作業を見た後、これまで見たことがなかった舗装のひび割れが気になるようになった。
- ・ 今まで何も考えず運転していたが、見えないところで維持管理作業をしていただいて感謝。

県民評価者は、インフラの維持管理の重要性、必要性を実感



インフラに対する理解醸成のスタートに

安全・安心な県土の強靱化と
地域の個性を支えるインフラへ